

青少年モニター制度を活用したアンケートの実施について

1 青少年モニター制度とは

京都市では、平成23年3月に、青少年行政の新たな指針として、「はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプランー第3次京都市青少年育成計画ー」を策定し、「青少年のチカラを活かした社会づくり」に緊急的・重点的に取り組んでいる。青少年が市政やまちづくりに参加する機会を増やし、社会への参加意識を高めるとともに、青少年の視点と意見を市政に反映させることにより、施策の充実を図ることを目的として、京都市内に在住、通学、通勤している13歳から30歳までの青少年をモニターとして登録し、ワークショップやアンケートの実施などを行っている。

※実施主体は、子ども若者はぐくみ局育成推進課。

※現在の最新モニター数は、45人（うち2人は社会人、そのほかは大学生）。

2 青少年モニター制度を活用したアンケートの実施について

本年下半期に市民アンケート調査を実施するに当たり、その前段として、今後、中心となる若者世代の防犯についての現状意識等を把握するため、当該制度を活用したアンケートの平成30年度実施分として「防犯意識に関するアンケート」を実施した。

実施期間：2019年3月8日～同月24日

実施方法：モニター登録者への紙配布。そのほか、モニター登録者以外からも回収できるように、アンケート実施委託業者のホームページ、Facebook でのアンケート調査の公開及び青少年活動センターへのアンケート用紙の配架を行った。

アンケート：別紙1参照

回答者数：136人

主な集計結果：・回答の約6割が大学生，大学院生，専門学校生。

- ・親と同居もしくは単身者が約9割。
- ・ほとんどの回答者が学生であるため、普段利用する移動手段に車やバイクはほとんどなく、自転車が多い。
- ・犯罪にあう可能性については、低くなったと思う方が5.9%と非常に少なく、体感治安の向上に繋がっていない表れ。全国的な凶悪犯罪や日常の行動範囲内で実際に犯罪が発生した経験、不審者が多いことなどにより体感治安が左右されており、中でも周りからは見えない SNS などのネット空間での不安が多い。
- ・家の戸締りや自転車等の鍵かけは必ず行うが、家族と防犯について話し合ったりすることはなく、自身が防犯対策をしていることも少ない。イヤホ

ンで音楽等を聴きながら歩いたり、スマートフォンを操作しながら歩くことも多く、また、7割以上が夜10時以降にひとりで帰る日があったと回答するなど、防犯行動を取る一方で、不安全行動を取っている人が多い。

- ・防犯に関し、多くの方が人口減少に伴う影響があると考えており、被害に合わないためには自分自身や家族で安心安全対策を取るべきだと考えている人が多い。
- ・防犯活動を行っている団体については、認知度が低いため、まずは知ってもらうことが必要。
- ・これまで地域活動に参加したことがない方も、参加したくないと思っている方はごくわずかで、何らかの条件さえ合えば、活動に参加してもらえる可能性がある人が多い。
- ・自由記述では、否定的な意見はなく、行政や警察に期待するもの、また、自分自身での防犯対策や地域の地道な活動の必要性を述べた意見が多かった。

※詳細は、別紙2参照

防犯意識に関するアンケート

京都市では、平成 11 年に施行した「京都市生活安全条例」に基づき、地域における犯罪や事故を未然に防止し、市民及び観光旅行者等が安心して生活または滞在することができるよう、「京都市生活安全基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定し、様々な事業に取り組んでおります。

現行の基本計画が 2011 年度（平成 23 年度）にスタートして以降、京都市における犯罪件数や交通事故による死傷者数は大きく減少するなどの取組の成果が得られている一方で、2015 年度（平成 27 年度）に実施した市民アンケート調査では、犯罪や事故にあう可能性が「高くなった」、「変わっていない」と感じている市民の割合が 8 割を超えており、取組の成果が市民の安心安全の実感に必ずしも繋がっていない状況にあるなど、課題があります。

社会状況も大きく変化しております。

2010 年（平成 22 年）当時 23% であった高齢化率も、現行の基本計画が終了する 2020 年度には 28.2% になると予想され、近い将来、若者 2 人で高齢者 1 人を支える社会になると言われております。

一方で、京都市には各種大学が集積しており、留学生を含め学生数も年々増加、転出者よりも転入者が多くなるなど、人口が増える素地があり、地域においても若者の力が期待されています。

そのほか、情報通信技術の更なる発展やサイバー犯罪の増加、子どもの犯罪被害の増加、成人年齢の引き下げによる若者被害の増加など、今後も様々な社会状況の変化が予想されます。

これらを踏まえ、2021 年度以降の新たな基本計画を策定するに当たり、市民の皆様、とりわけ今回は青少年の皆様の防犯に関する意識等を把握するため、アンケートを実施します。

御協力のほど、よろしくお願いします。



※本アンケートは、左の QR コードからも回答することが出来ます。

【属性について】

問1 あなたご自身についてお答えください。

ア 性別 [男性 ・ 女性 ・ () ・ 答えたくない]

イ 年齢 [歳]

ウ 職業

- [1.自営業（家族従事者を含む）・自由業 2.会社員（正社員） 3.公務員（正職員）
4.正社員，正職員以外のパート，アルバイトなど 5.専業主婦・専業主夫
6.上記5.を除く無職 7.大学生，大学院生，専門学校生
8.その他 ()]

エ 家族構成

- [1.単身 2.夫婦2人 3.2世代（3.を選択された方）→あなたは（ア.親 イ.子）
4.3世代（4.を選択された方）→あなたは（ア.親 イ.子 ウ.孫）
5.その他 ()]

オ 居住地域

- [1.北区 2.上京区 3.左京区 4.中京区 5.東山区 6.山科区
7.下京区 8.南区 9.右京区 10.西京区（洛西） 11.西京区（洛西以外）
12.伏見区（深草） 13.伏見区（醍醐） 14.伏見区（深草・醍醐以外）
15.京都市以外]

カ オで京都市内と答えの方はお答えください。居住年数（現在の場所に住んで何年か）

- [1.1年未満 2.1年以上～5年未満 3.5年以上～10年未満
4.10年以上～20年未満 5.20年以上]

キ 居住形態

- [1.持家（家族の持家含む）→（ア.マンション イ.一軒家）
2.借家（ア.マンション イ.一軒家）]

コ 普段の移動手段

- [1.徒歩 2.自転車 3.バイク 4.車 5.公共交通機関 6.その他 ()]

サ 近所との付き合いの程度

- [1.頻繁に付き合いがある 2.挨拶程度の付き合い 3.まったく付き合いがない]

【犯罪や迷惑行為に関する安心・安全について】

問2 あなたやあなたの家族が犯罪にあう可能性について、どのように感じですか。日常の行動範囲内（自宅周辺，市内の通勤・通学，買物等で行く地域）で当てはまるものをお答えください。（1 つだけ選択）

- 1.非常に高くなった 2.高くなった 3.変わらない 4.低くなった
5.非常に低くなった 6.わからない

問3 問2で「非常に高くなった」「高くなった」と答えた方へおたずねします。犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由は何ですか。（いくつでも選択可）

- 1.全国的に凶悪な事件が多発しているから
- 2.不審者が多くなった気がするから
- 3.日常の行動範囲内で実際に犯罪が発生し、身近に不安を感じるから
- 4.訪日外国人が増えたから
- 5.様々な情報が氾濫し、それが容易に手に入るから
- 6.地域社会の連帯感が希薄になったから
- 7.人々の規範意識やモラルが低下したから
- 8.人々の防犯意識が希薄になったから
- 9.高齢者を狙った特殊詐欺が多発しているから
- 10.インターネットを用いたサイバー犯罪など、多様化、巧妙化してきたから
- 11.警察官や地域の防犯ボランティアの姿が見えないから
12. その他（ ）

問4 犯罪や迷惑行為に関して、あなたが日頃、特に不安に思われていることは何ですか。
(いくつでも選択可)

1. 暴行・傷害・殺人などの生命・身体にかかわる凶悪犯罪
2. 空き巣、ひったくりなどの財産をねらう犯罪
3. DV やストーカー行為などの犯罪
4. 性暴力被害
5. SNS などインターネットを利用する中で受ける被害（個人情報・画像流出・出会い系サイト等での被害など）
6. 覚醒剤・大麻・危険ドラッグなどの薬物問題
7. 特殊詐欺や悪質商法などの詐欺
8. 暴力団による組織犯罪
9. 訪日外国人急増に伴うマナー違反
10. 子どもを狙う犯罪
11. 未成年者による非行や犯罪
12. いたずら電話、落書き

- 13.違法駐車，放置自転車
 14.放火や火遊び
 15. その他（
 16.特にない

問 5 あなたや周りの人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所はどこですか。

(いくつでも選択可)

- 1.繁華街 2.駅やその周辺 3.路上・通学路 4.電車やバスなどの乗り物の中
 5.エレベーター 6.駐車場・駐輪場 7.公園 8.自宅やその周辺
 9.インターネット空間 10.学校や幼稚園など 11.スーパーなどの店舗内
 12. その他（ ） 13.特にない

問 6 あなたや周りの人が犯罪にあわないために，過去 1 箇月の間に次のようなことに取り組みましたか。(各問 1 つだけ選択) ※1 箇月以上前から既に取り組んでいるものがある場合も引き続き取り組んだとして○をしてください。)

1.家の戸締り，車や自転車等の鍵かけを必ず行った	なかった・1 回・2 回以上・毎日必ず
2.地域での挨拶・声かけをした	なかった・1 回・2 回以上・毎日必ず
3.夜間外出時は家の明かりをつけたままにした	なかった・1 回・2 回以上・毎日している
4.来客があった場合も身元が確認できるまでドアを開けないようにした	なかった・1 回・2 回以上・毎日している
5.犯罪に遭わないよう防犯ブザーを携行するなど具体的な対策について家族と話し合った	なかった・1 回・2 回以上
6.防犯ブザーの携行やひったくり防止のため自転車の前かごにネットを張ったり，鞆を道路側に持たないなどの防犯対策を取った	なかった・1 回・2 回以上・毎日している
7.子どもの送迎をした（あなた自身が送迎してもらった）	なかった・1 回・2 回以上
8.携帯電話やスマートフォンで，迷惑メール受信拒否，SNS の友達自動追加拒否などの設定をした	している・していない
9.子どもの見守り活動や自治会のパトロールに参加した	なかった・1 回・2 回以上
10.防犯に関する警察や行政からの後方を注意して見た	なかった・1 回・2 回以上

問 7 あなたは過去 1 箇月の間に、次のようなことがありましたか。(各問 1 つだけ選択)

1.家の戸締りをせず外出した	なかった・1回・2回以上
2-ア.自転車を鍵をかけずに駐車した	なかった・1回・2回以上・持っていない
2-イ.バイクを鍵をかけずに駐車した	なかった・1回・2回以上・持っていない
2-ウ.車を鍵をかけずに駐車した	なかった・1回・2回以上・持っていない
3.イヤホンで音楽等を聴きながら歩いた	なかった・1回・2回以上
4.携帯電話やスマートフォンを操作しながら歩いた	なかった・1回・2回以上
5.自分の住所や名前等個人情報が載っている郵便物等を裁断せずにそのまま捨てた	なかった・1回・2回以上
6.車内やお店などで、自分の持ち物を置いたままその場から離れた	なかった・1回・2回以上
7.午後10時以降にひとりで帰宅した	なかった・1回・2回以上
8.知らないところからの電話やメール等に対応・返信した	なかった・1回・2回以上
9.鞆を車道側に持った、鞆を開けたまま人が密集する場所に入った	なかった・1回・2回以上

問 8 京都市も含め全国的に人口の減少傾向が続き、高齢者（65 歳以上）の人口割合が増加、子ども（14 歳以下）の人口割合が減少しており、今後もさらにこの傾向が続くと予想されます。あなたは、これらによって、どんな影響があると思いますか。

(いくつでも選択可)

※京都市の推計人口 1,468,525 人（平成 31 年 1 月 1 日現在）、65 歳以上 408,406 人・14 歳以下 350,796 人（平成 30 年 10 月 1 日現在）【平成 22 年それぞれ同日比較 1,474,084 人、65 歳以上 338,682 人、14 歳以下 323,688 人】

1. 高齢者をねらった犯罪（特殊詐欺）が増える
2. 子どもをねらった犯罪（連れ去りなど）が増える
3. 空き家や空き店舗が増え犯罪者に利用される
4. 防犯活動の担い手が高齢化し、後継者不足が問題になる
5. これらの影響があるとは思わない
6. その他（ ）

問 9 それでは、犯罪や迷惑行為の被害に遭わないために、安心安全対策をすべき主体は
どれだと思いますか。(いくつでも選択可)

- 1.個人・家族 2.町内会・自治会等地域団体 3.地方自治体 4.警察
5.その他（ ）

【地域による防犯活動等について】

問 10 京都市内の地域において防犯活動を行っている次の団体で知っている団体はありますか。(いくつでも選択可)

- 1.世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動推進組織
- 2.防犯推進委員協議会 3.学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」
- 4.平安レディース 5. 学区の安心安全ネットワーク 6.自治会や町内会
- 7.その他() 8.まったく知らない

問 11 問 10 で知っている団体があると答えた方, 知っている程度について当てはまるものはどれですか。(1 つだけ選択)

- 1.(どのような活動をしているかも) よく知っている
- 2.(活動の少しを) 知っている
- 3.名前を聞いたことがある程度

問 12 あなたは, 地域(自治会・町内会など)の人々が防犯・交通事故防止面で協力する必要性を感じますか。(1 つだけ選択)

- 1.感じる 2.どちらかといえば感じる 3.どちらかといえば感じない
- 4.感じない 5.わからない

問 13 あなたは, この1年間の間で地域(自治会・町内会など)の人々による防犯活動に参加していますか。(1 つだけ選択)

- 1.よく参加している 2.時々参加している 3.ほとんど参加しない
- 4.まったく参加しない

問 14 問 13 で「1.よく参加している」「2.時々参加している」と答えた方, どの団体の活動に参加されていますか。(いくつでも選択可)

- 1.世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動推進組織
- 2.防犯推進委員協議会 3.学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」
- 4.平安レディース 5. 学区の安心安全ネットワーク 6.自治会や町内会
- 7.その他()

問 15 問 13 で「3.ほとんど参加しない」「4.まったく参加していない」と答えた方におたずねします。どのような地域活動であれば参加してもよいと思いますか。

(最大3つまで選択可)

- 1.正式に団体に所属しなくても参加できる
- 2.当番や役職を強制されずに参加できる
- 3.空いた時間に活動できる

平成 30 年度京都市青少年モニター制度

「防犯意識」に関するアンケート

調査報告書

特定非営利活動法人 Mielka

-----報告内容-----

1. アンケートの概要
2. 質問事項とアンケート結果

1. アンケートの概要

【アンケートの目的】

京都市では、1999年に施行した「京都市生活安全条例」に基づき、地域における犯罪や事故を未然に防止し、市民及び観光旅行者等が安心して生活または滞在することができるよう、「京都市生活安全基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定し、様々な事業に取り組んでおります。

2021年度以降の新たな基本計画を策定するに当たり、市民の皆様、とりわけ今回は青少年の皆様の防犯に関する意識等を把握するため、本アンケートを実施しました。

【実施期間】

平成31年3月9日（土）～ 3月24日（日）

【アンケート対象】

青少年モニターおよび青少年（13～30歳）

【回答数】

136

【項目と設問数】

- (1)属性について
 - (2)犯罪や迷惑行為に関する安心・安全について
 - (3)地域による防犯活動について
- 以上、3項目16問を設定

【意見募集方法】

アンケートを作成し、郵送による配布、メールによる配信
NPO法人MeikaのHP、Facebookでの掲示

2. 質問事項とアンケート結果

(1)属性について

問1. あなたご自身についてお答えください。

ア.性別

男性	64 人
女性	68 人
答えたくない	4 人

イ.年代

10 代	64 人
20 代	72 人

ウ.職業

自営業（家族従事者を含む）・自由業	0 人
会社員（正社員）	5 人
公務員（正職員）	4 人
正社員，正職員以外のパート，アルバイトなど	6 人
専業主婦・専業主夫	0 人
専業主婦・専業主夫を除く無職	3 人
大学生，大学院生，専門学校生	83 人
中学生	9 人
高校生	20 人
その他	6 人

エ.家族構成

単身	38 人
夫婦 2 人	3 人
2 世代	84 人
3 世代	10 人
その他	1 人

オ.居住地域

北区	20 人	右京区	3 人
上京区	16 人	西京区（洛西）	1 人
左京区	11 人	西京区（洛西以外）	2 人
中京区	5 人	伏見区（深草）	7 人
東山区	4 人	伏見区（醍醐）	0 人
山科区	2 人	伏見区（深草・醍醐以外）	14 人
下京区	4 人	京都市以外	41 人
南区	6 人		

カ. オで京都市内と答えた方はお答えください。居住年数（現在の場所に住んで何年か）

1 年未満	15 人
1 年以上～5 年未満	33 人
5 年以上～10 年未満	6 人
10 年以上～20 年未満	30 人
20 年以上	14 人

キ.居住形態

持家（家族の持家含む）マンション	17 人
持家（家族の持家含む）一軒家	64 人
借家 マンション	51 人
借家 一軒家	4 人

コ.普段の移動手段

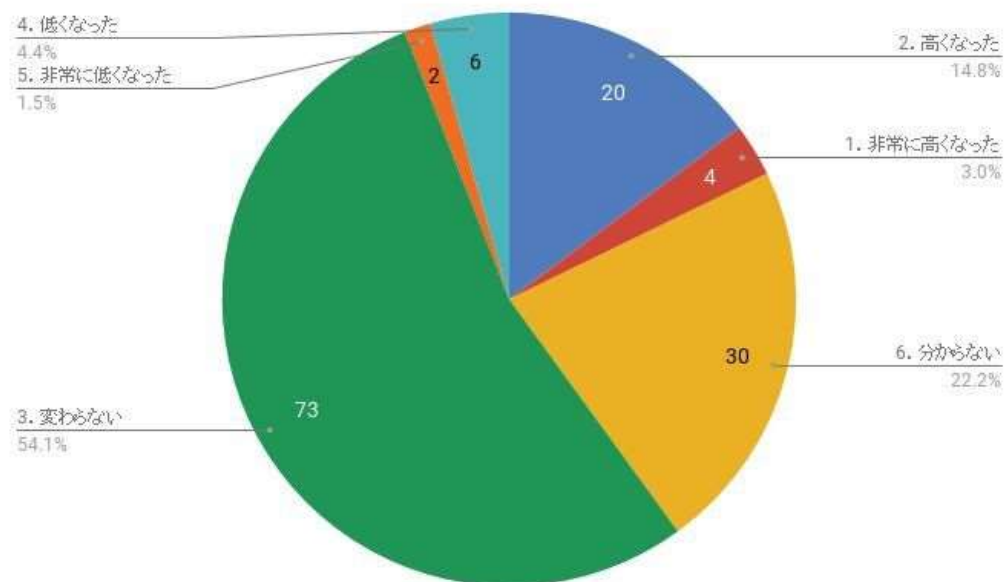
徒歩	21 人
自転車	53 人
バイク	8 人
車	5 人
公共交通機関	49 人
その他	0 人

サ.近所との付き合いの程度

頻繁に付き合いがある	13 人
挨拶程度の付き合い	77 人
まったく付き合いがない	46 人

(2)犯罪や迷惑行為に関する安心・安全について

問 2. あなたやあなたの家族が犯罪にあう可能性について、どのように感じですか。日常の行動範囲内（自宅周辺、市内の通勤・通学、買物等で行く地域）で当てはまるものをお答えください。（1 つだけ選択）

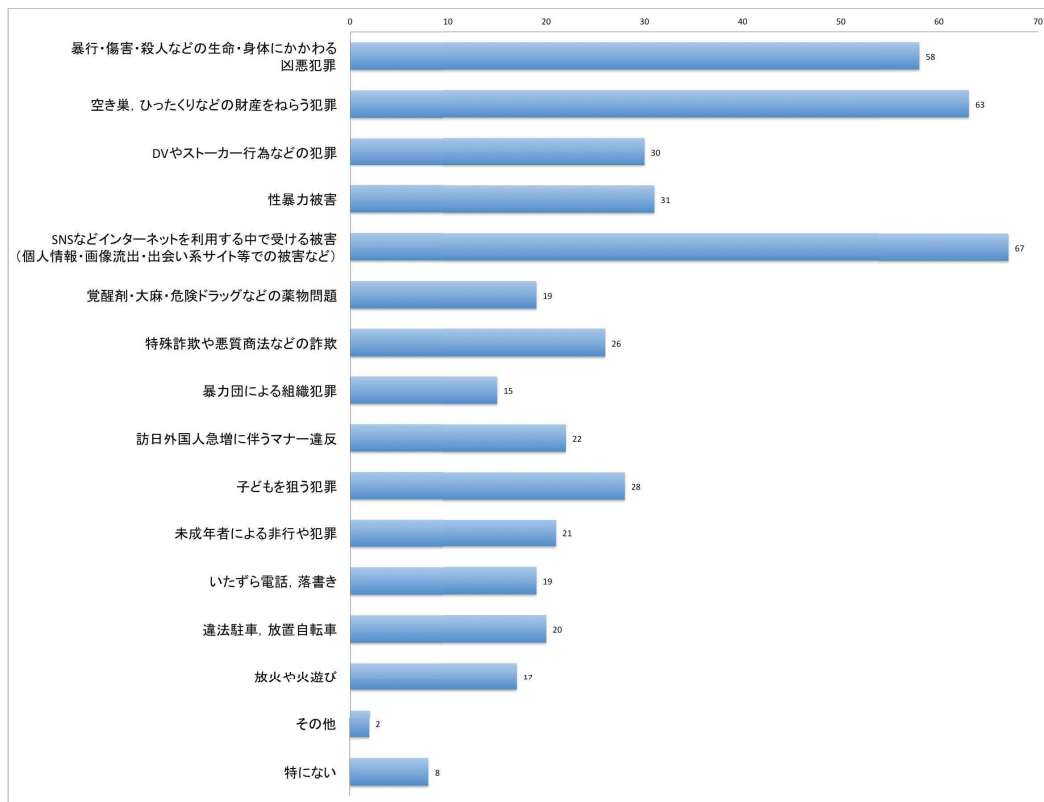


問 3. 問 2 で「非常に高くなった」「高くなった」と答えた方へおたずねします。犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由はどれですか。(いくつでも選択可)

全国的に凶悪な事件が多発しているから	9 人
不審者が多くなった気がするから	15 人
日常の行動範囲内で実際に犯罪が発生し、身近に不安を感じるから	7 人
訪日外国人が増えたから	5 人
様々な情報が氾濫し、それが容易に手に入るから	6 人
地域社会の連帯感が希薄になったから	7 人
人々の規範意識やモラルが低下したから	5 人
人々の防犯意識が希薄になったから	5 人
高齢者を狙った特殊詐欺が多発しているから	2 人
インターネットを用いたサイバー犯罪など、多様化、巧妙化してきたから	8 人
警察官や地域の防犯ボランティアの姿が見えないから	4 人
その他	0 人

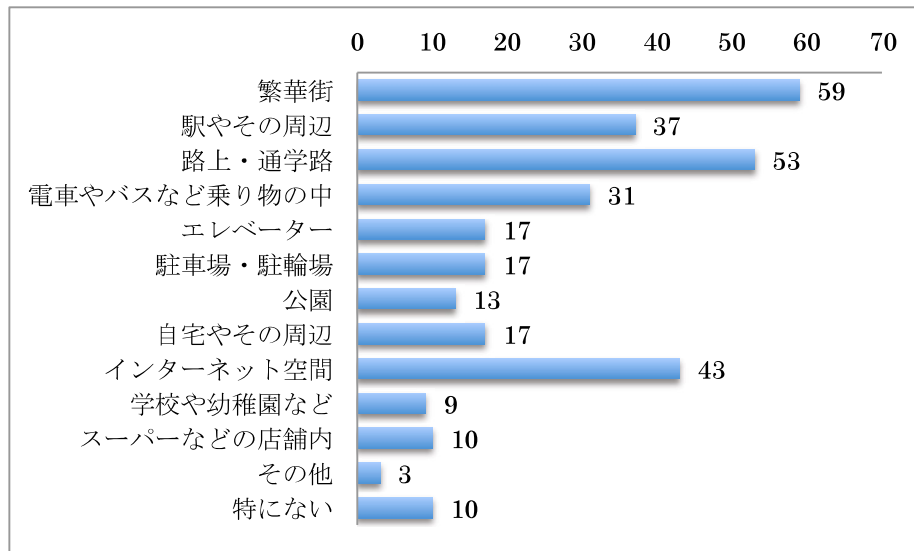
◆ 問 2 では、約過半数の方が「変わらない (54.1%)」と回答され、「非常に高くなった (3.0%)、高くなった (14.8%)」と答えた方のうち、その要因として、「不審者が多くなった気がするから」の回答が多く見られたが、全体的に回答がわかれ、様々な理由によって犯罪率の高まりを感じていることが分かります。

問４．犯罪や迷惑行為に関して、あなたが日頃、特に不安に思われていることは何ですか。（いくつでも選択可）



- ◆ 若者の使用率が高い SNS だが、SNS による犯罪への意識が高いことも表れています。また、空き巣、ひったくりや暴行・傷害・殺人事件などへの意識も高くみられました。

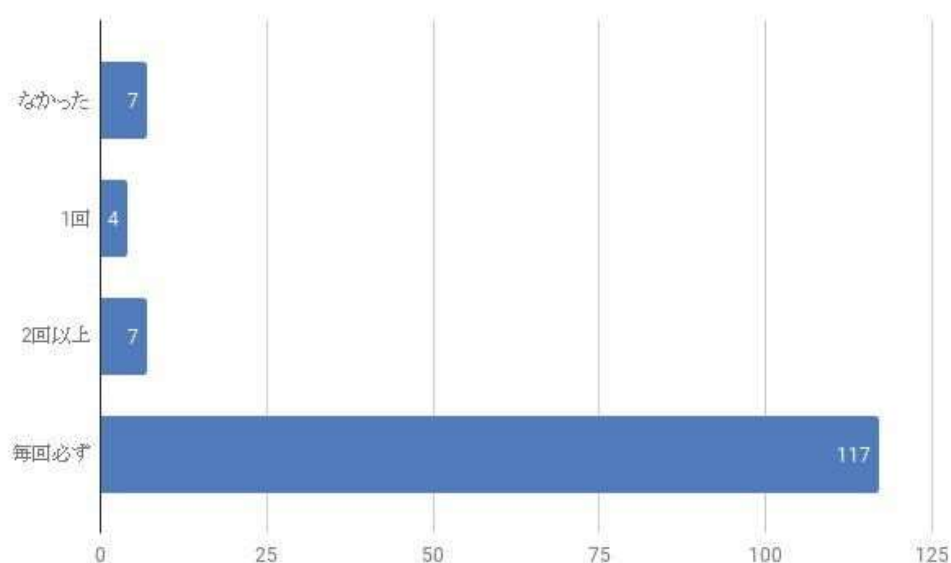
問5. あなたや周りの人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所はどこですか。(いくつでも選択可)



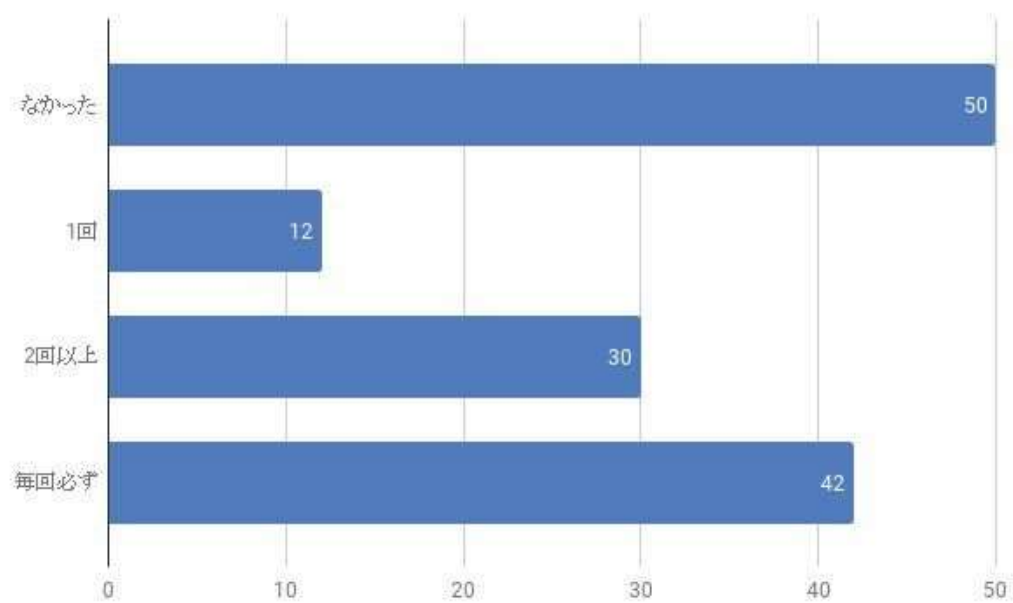
◆ 「繁華街」「路上・通学路」「インターネット空間」など人の集合が多くみられるところに犯罪の不安を感じる方が多くみられました。

問6. あなたや周りの人が犯罪にあわないために、過去1箇月の間に次のようなことに取り組みましたか。(各問1つだけ選択) ※1箇月以上前から既に取り組んでいるものがある場合も引き続き取り組んだとして○をしてください。)

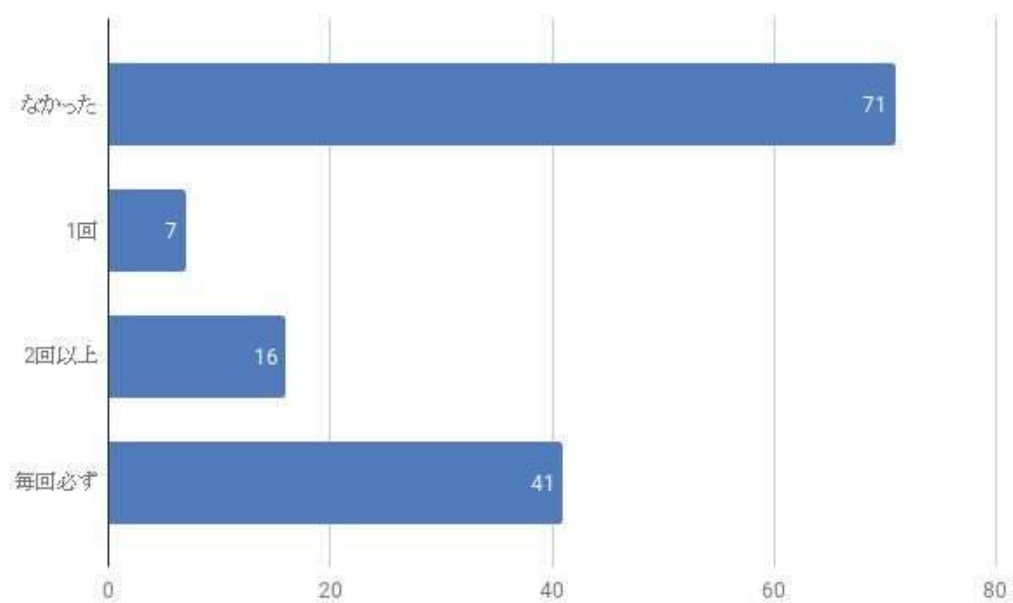
1. 家の戸締り，車や自転車等の鍵かけを必ず行った



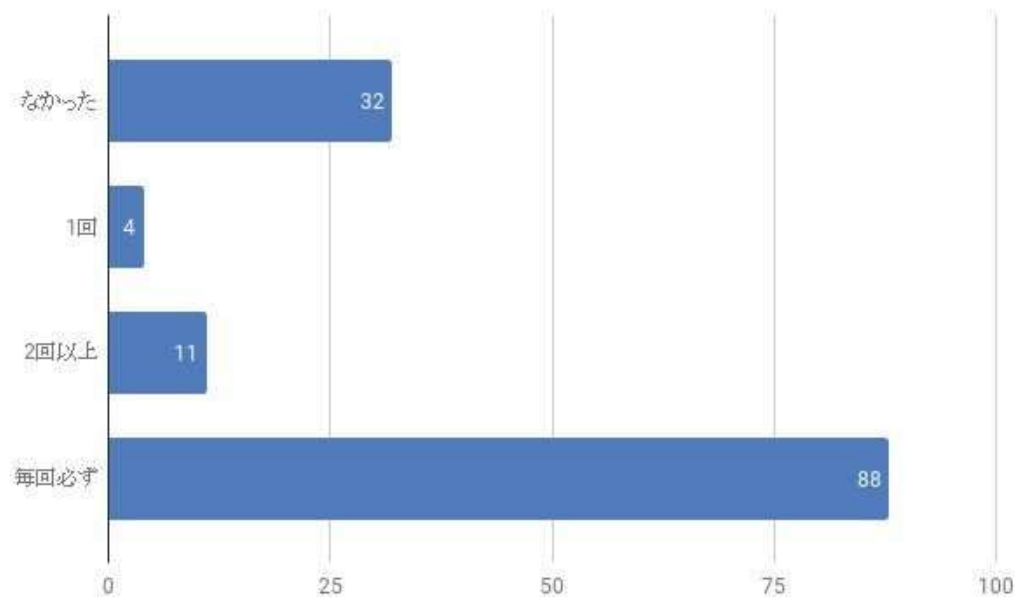
2. 地域での挨拶・声かけをした



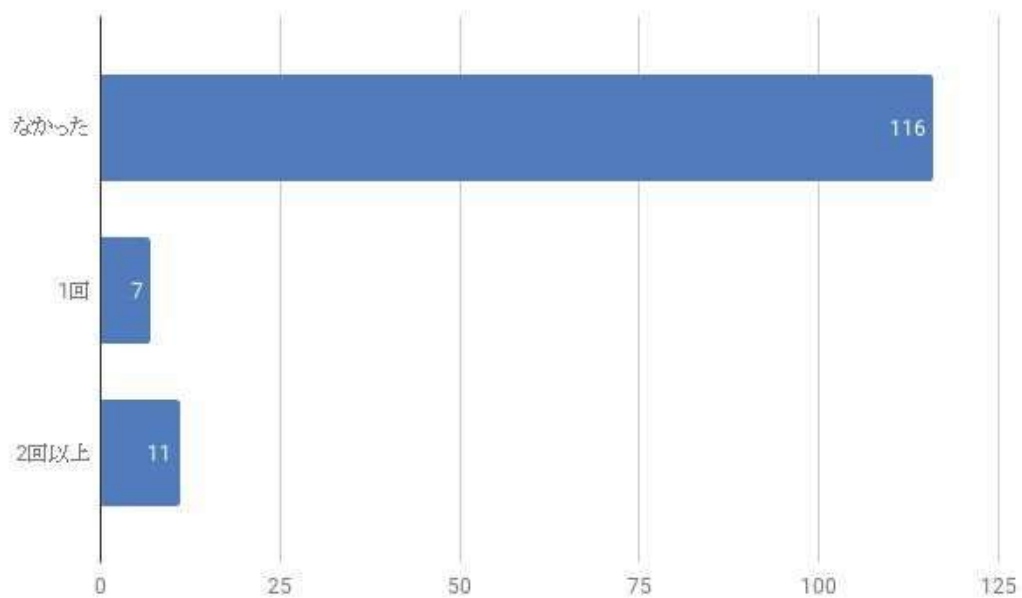
3. 夜間外出時は家の明かりをつけたままにした



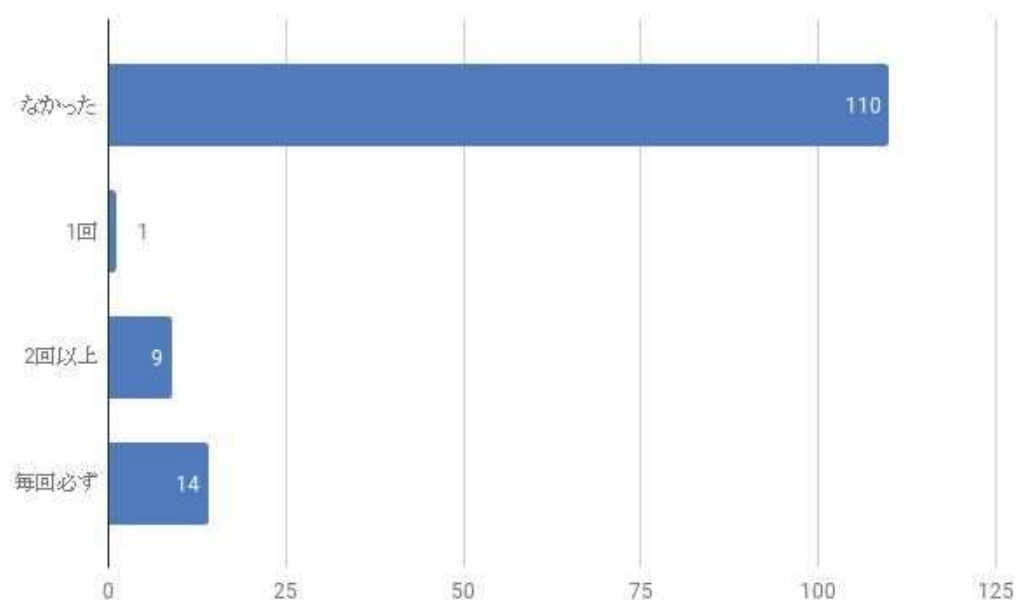
4. 来客があった場合も身元が確認できるまでドアを開けないようにした



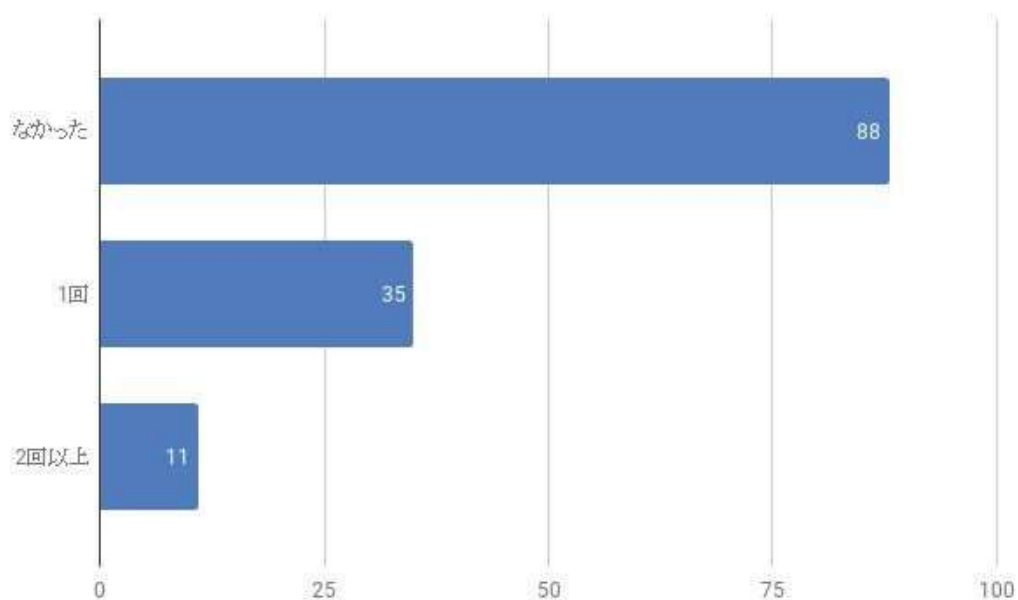
5. 犯罪に遭わないよう防犯ブザーを携行するなど具体的な対策について家族と話し合った



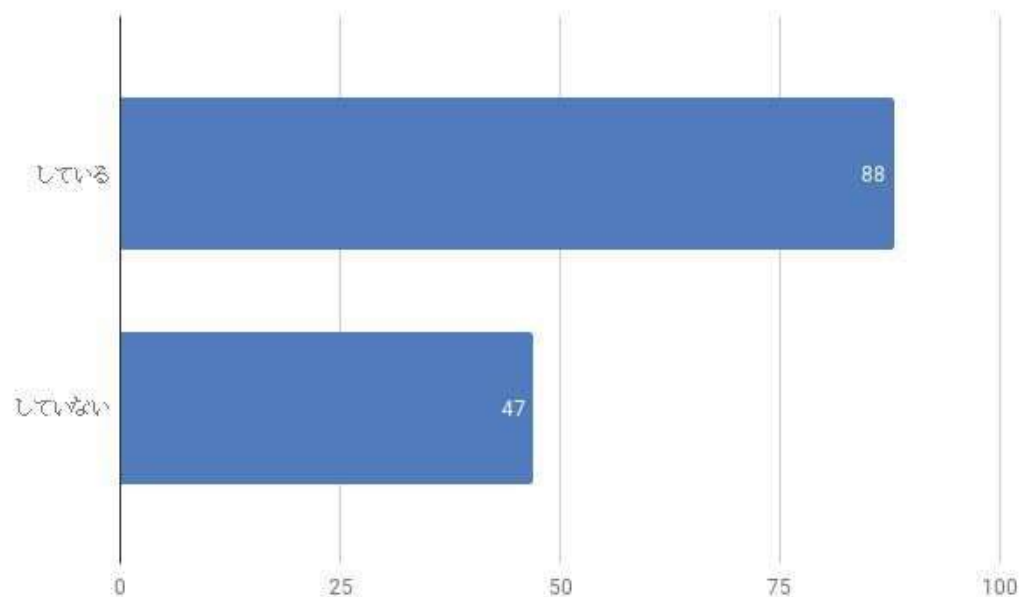
6. 防犯ブザーの携行やひったくり防止のため自転車の前かごにネットを張ったり、鞆を道路側に持たないなどの防犯対策を取った



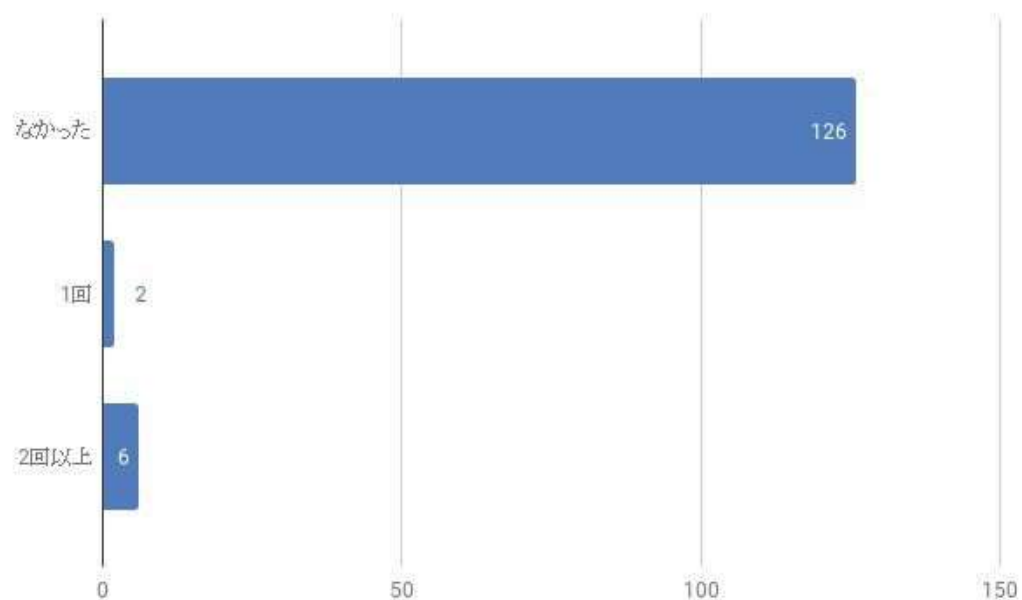
7. 子どもの送迎をした（あなた自身が送迎してもらった）



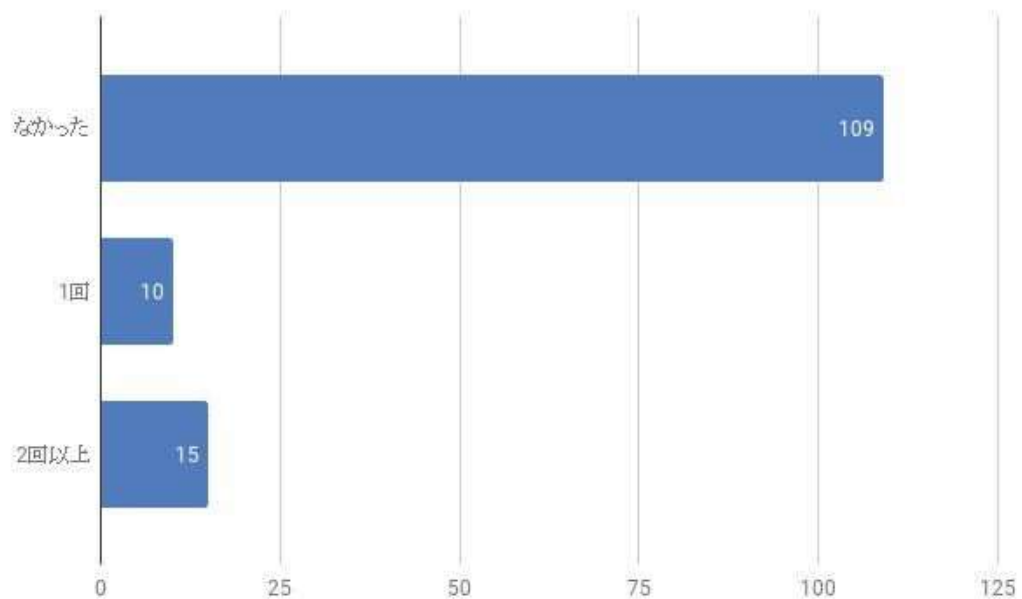
8. 携帯電話やスマートフォンで、迷惑メール受信拒否、SNS の友達自動追加拒否などの設定をした



9. 子どもの見守り活動や自治会のパトロールに参加した



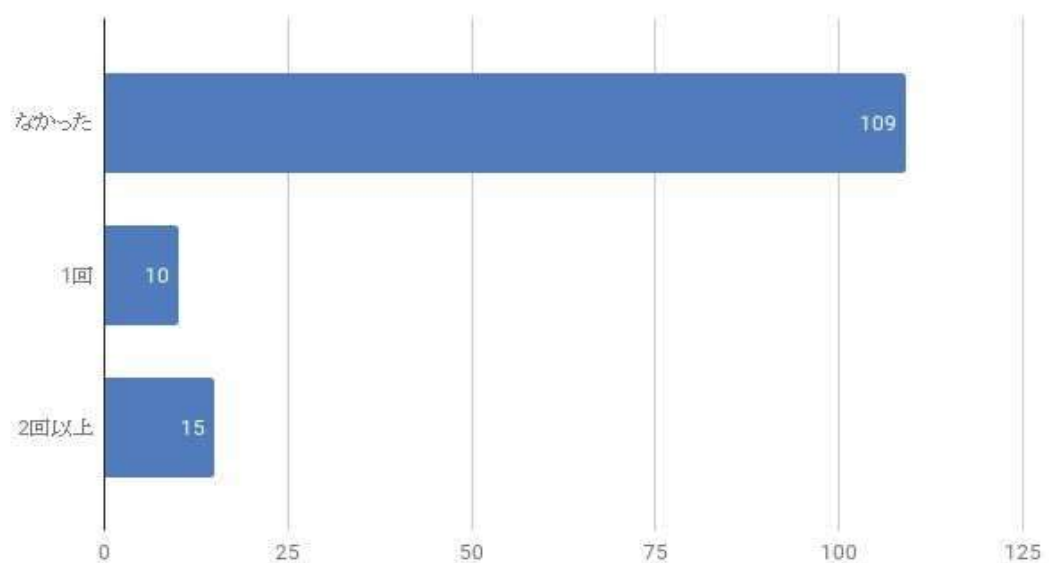
10. 防犯に関する警察や行政からの後方を注意して見た



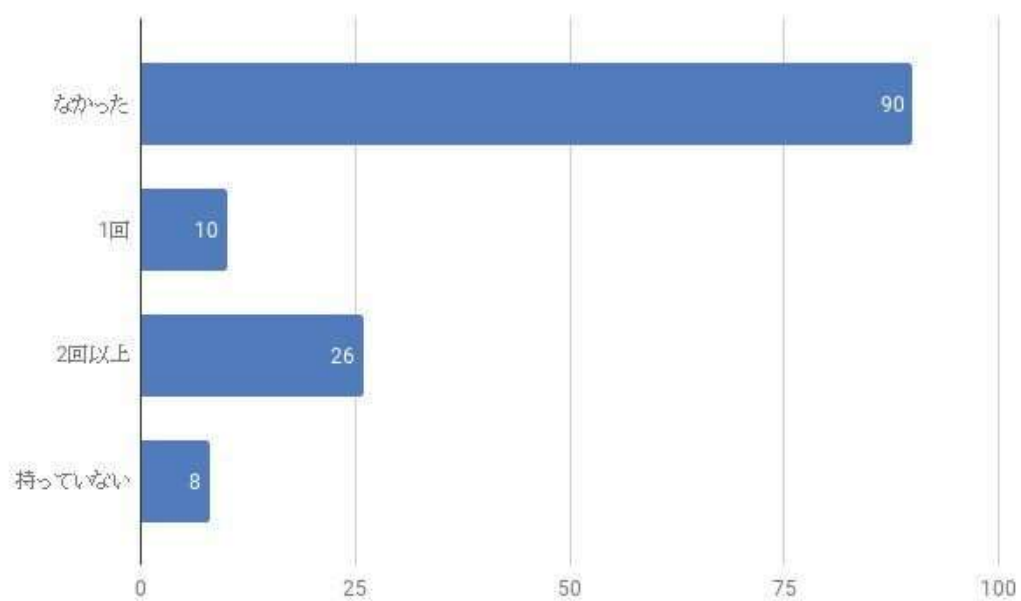
- ◆ 防犯への取り組みについて、戸締りや地域内での声かけは多く見られたものの、外出時の防犯対策や家族内での相談、積極的な防犯活動への参加は少なく、防犯の範囲や意識に濃淡があることが表れています。

問7. あなたは過去1箇月の間に、次のようなことがありましたか。(各問1つだけ選択)

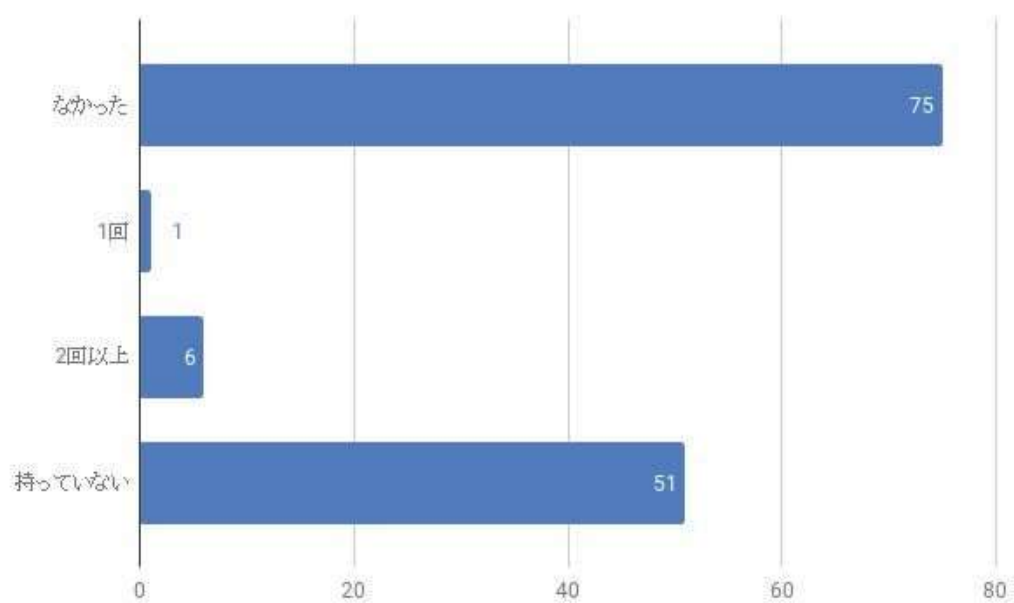
1. 家の戸締りをせずに外出した



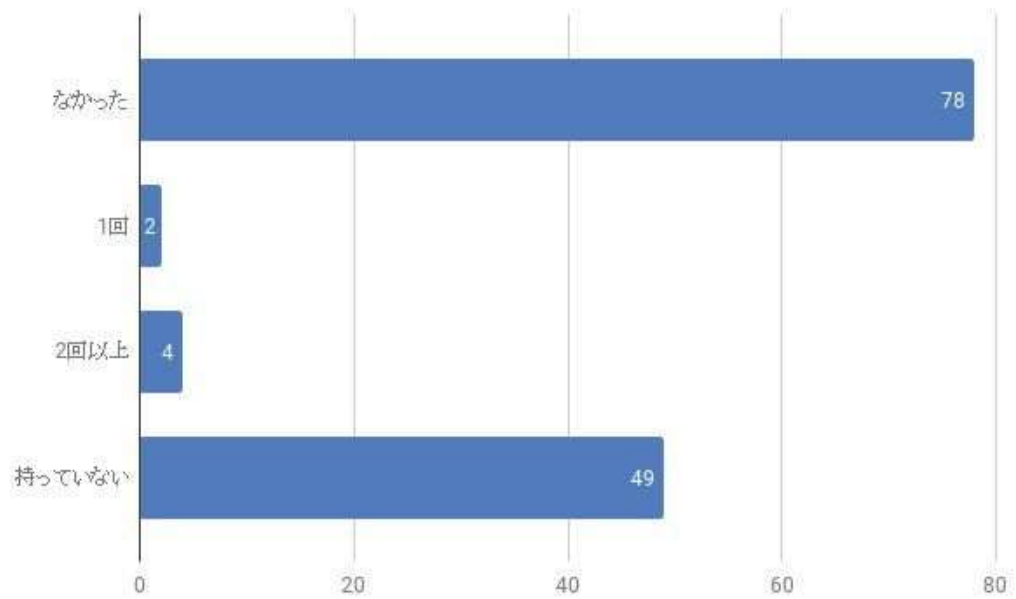
2. ア.自転車を.鍵をかけずに駐車した



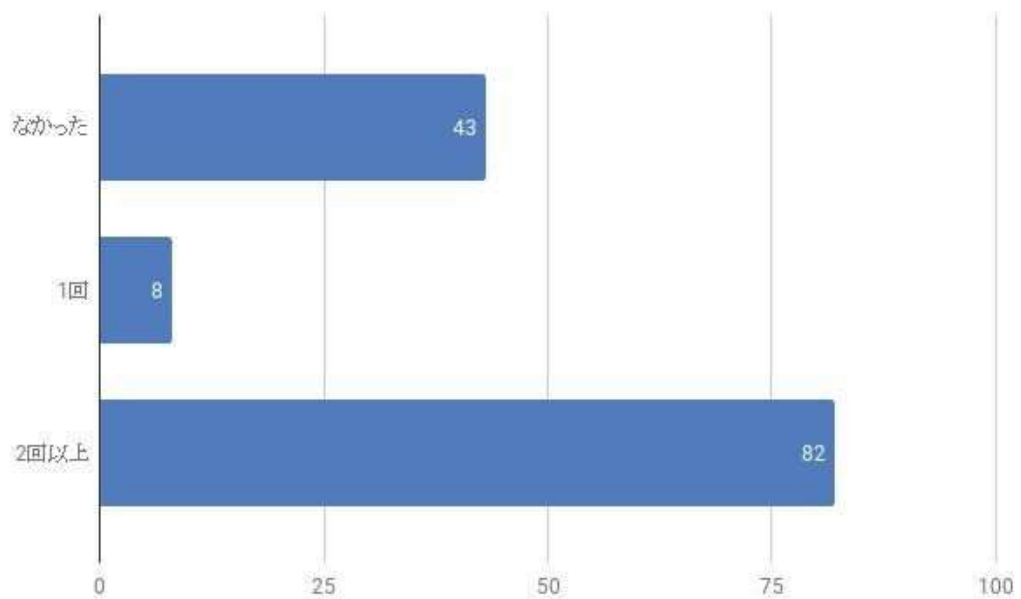
イ. バイクを.鍵をかけずに駐車した



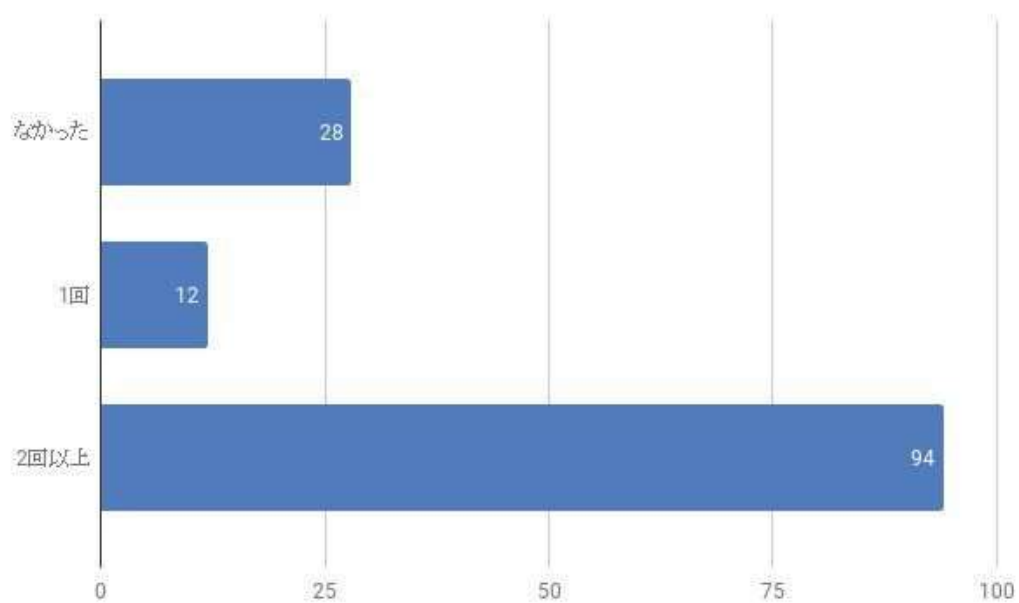
ウ.車を鍵をかけずに駐車した



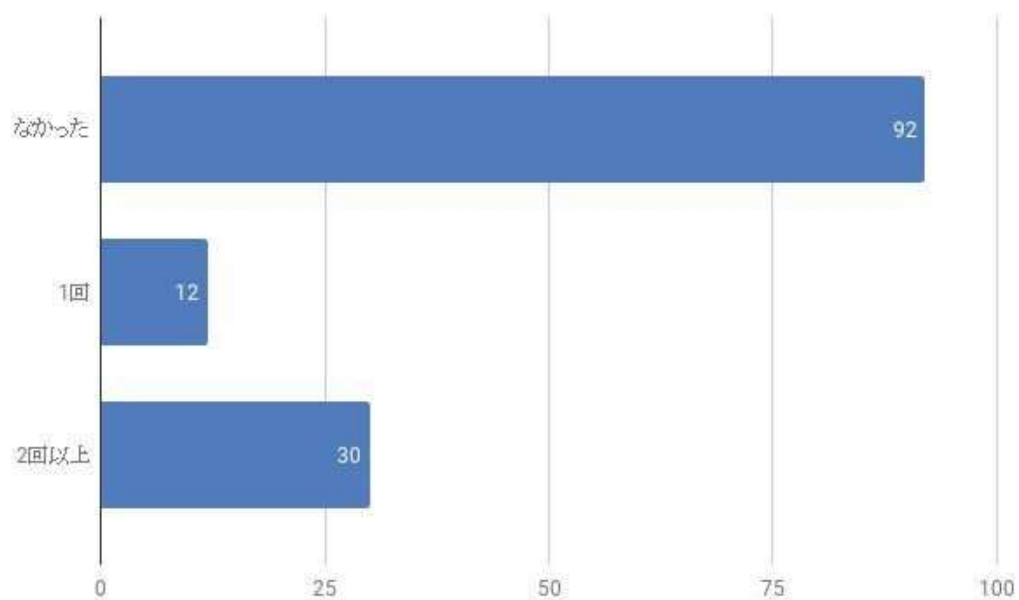
3. イヤホンで音楽等を聴きながら歩いた



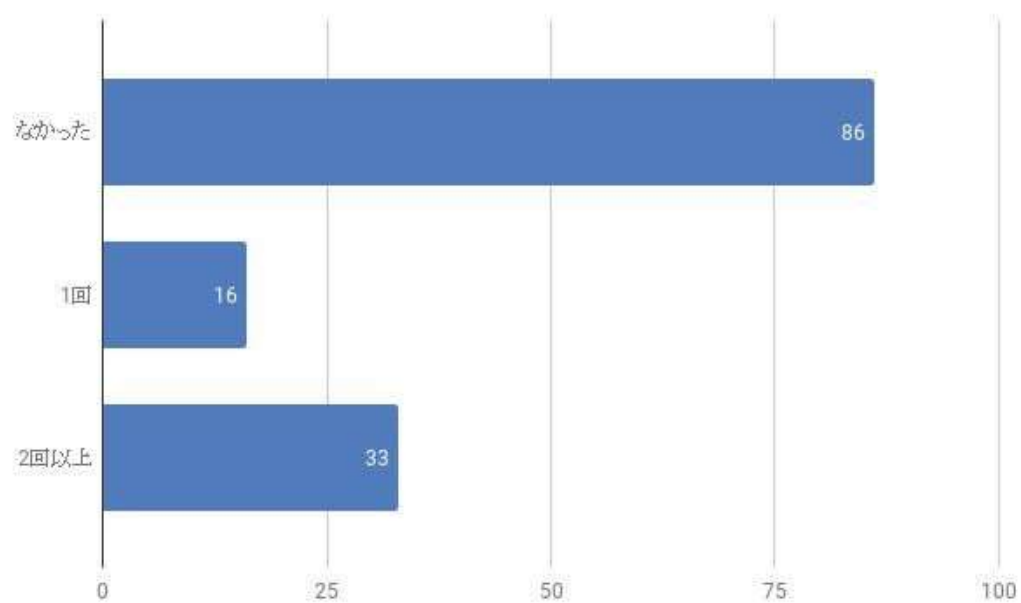
4. 携帯電話やスマートフォンを操作しながら歩いた



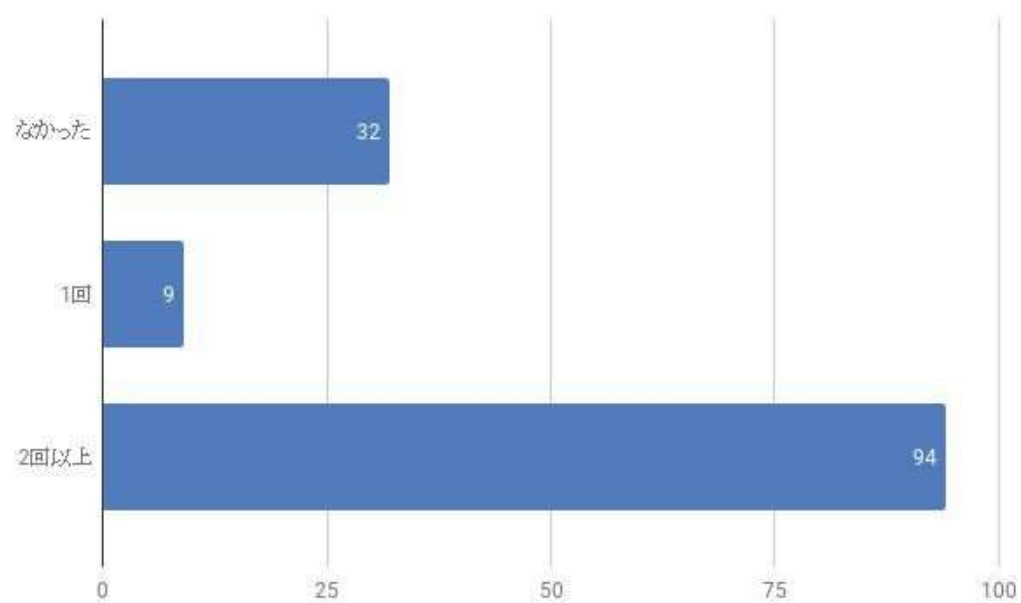
5. 自分の住所や名前等個人情報が載っている郵便物等を裁断せずにそのまま捨てた



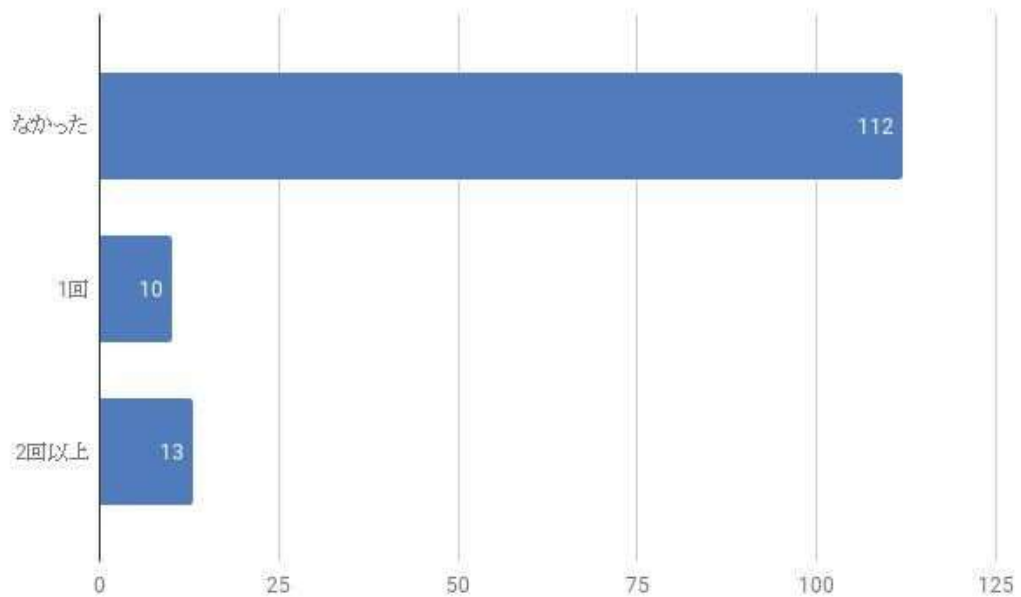
6. 車内やお店などで、自分の持ち物を置いたままその場から離れた



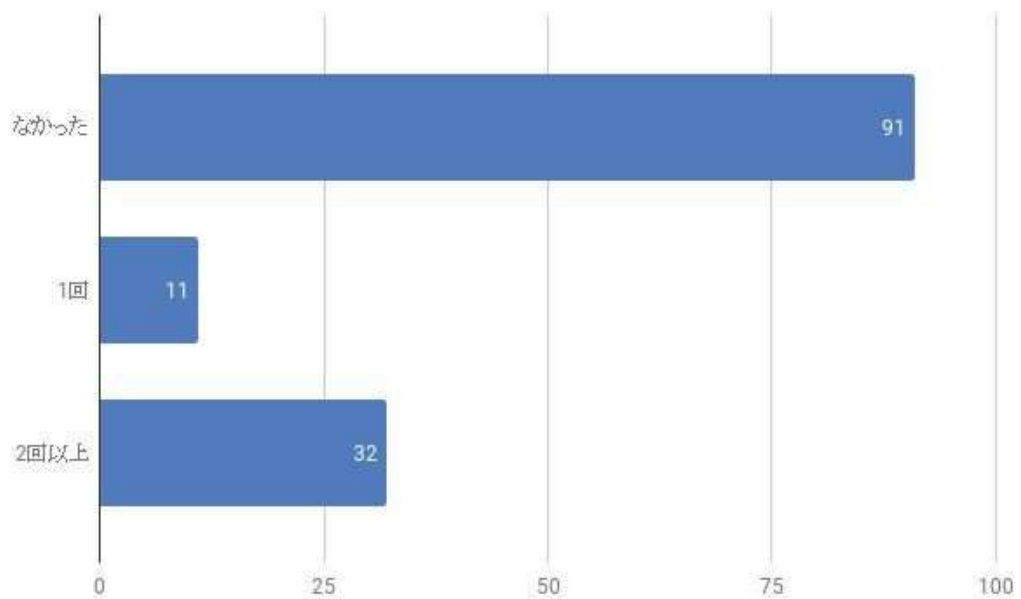
7. 午後 10 時以降にひとりで帰宅した



8. 知らないところからの電話やメール等に対応・返信した

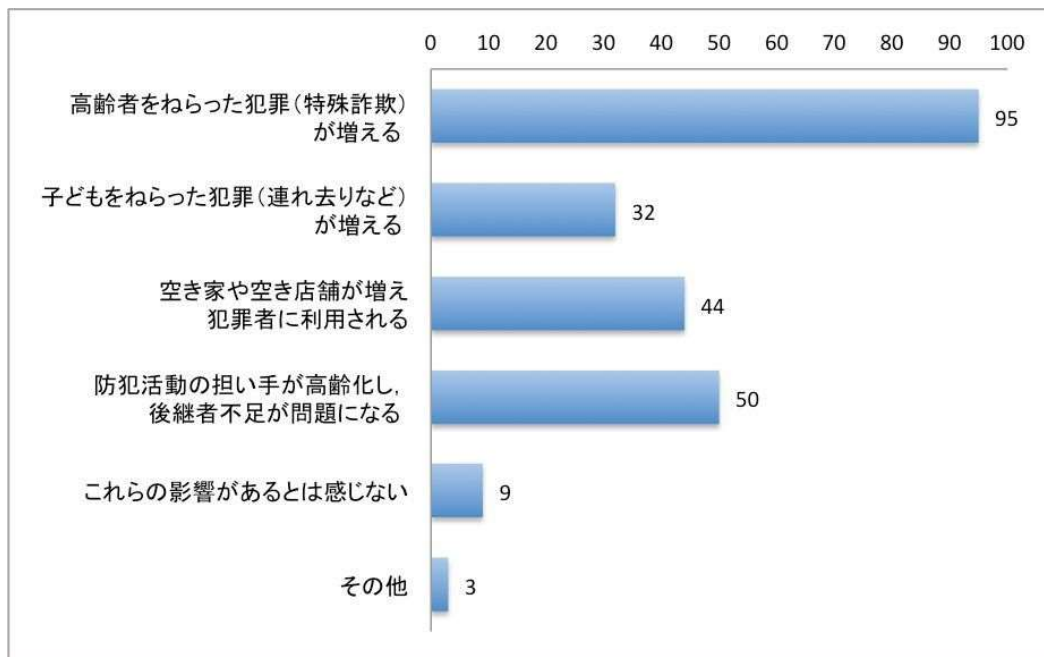


9. 鞆を車道側に持った、鞆を開けたまま人が密集する場所に入った



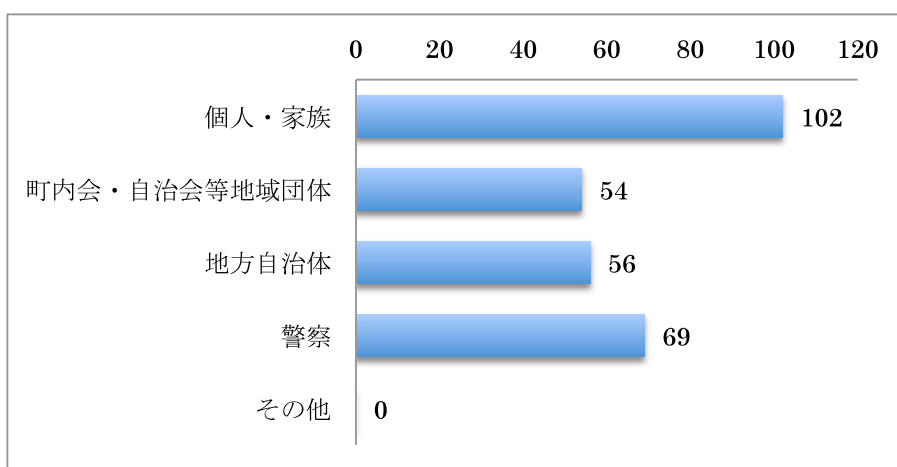
◆戸締りへの意識は高い一方で、路上でのスマートフォンやイヤホンの使用率が高く表れました。また、午後10時以降にひとりで帰宅する方が多く、夜間や夜道での防犯対策が課題となっています。

問 8．京都市も含め全国的に人口の減少傾向が続き、高齢者（65 歳以上）の人口割合が増加、子ども（14 歳以下）の人口割合が減少しており、今後もさらにこの傾向が続くと予想されます。あなたは、これらによって、どんな影響があると思いますか。（いくつでも選択可）



◆ 全国的な高齢化から、「高齢者をねらった犯罪が増える」と回答した方が多く、防犯活動の担い手の不足にも問題意識が見受けられます。少子高齢化に伴う防犯への取り組みが求められています。

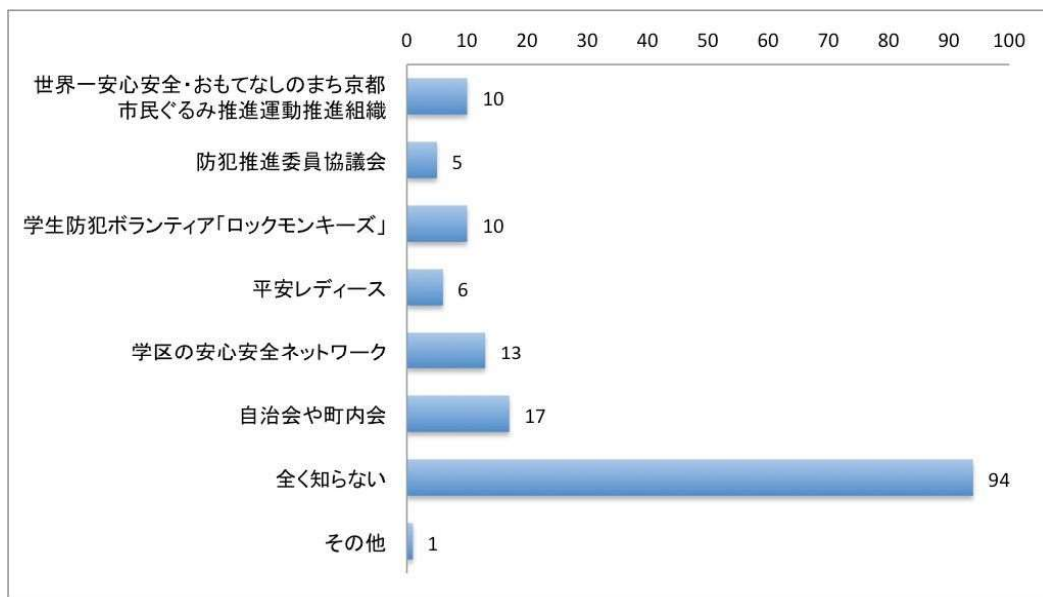
問 9．それでは、犯罪や迷惑行為の被害に遭わないために、安心安全対策をすべき主体はどれだと思いますか。（いくつでも選択可）



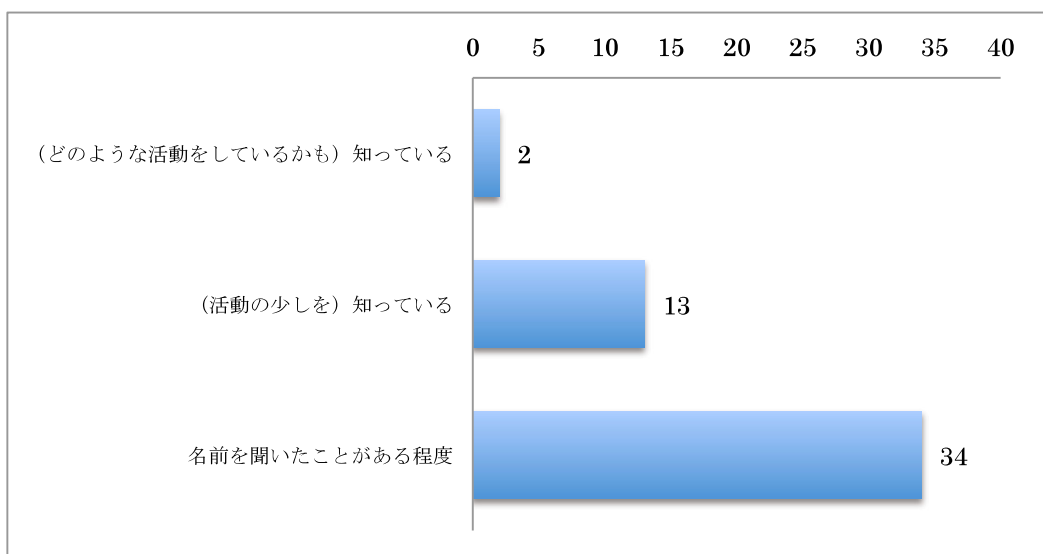
- ◆ 防犯の主体者として、「個人・家族」が最も多く、次いで、「警察」との回答が多くなっています。回答者の中には全てを選択する方もみられ、それぞれの連携と協働への取り組みが必要です。

(3)地域による防犯活動について

問 1 0．京都市内の地域において防犯活動を行っている次の団体で知っている団体はありますか。（いくつでも選択可）

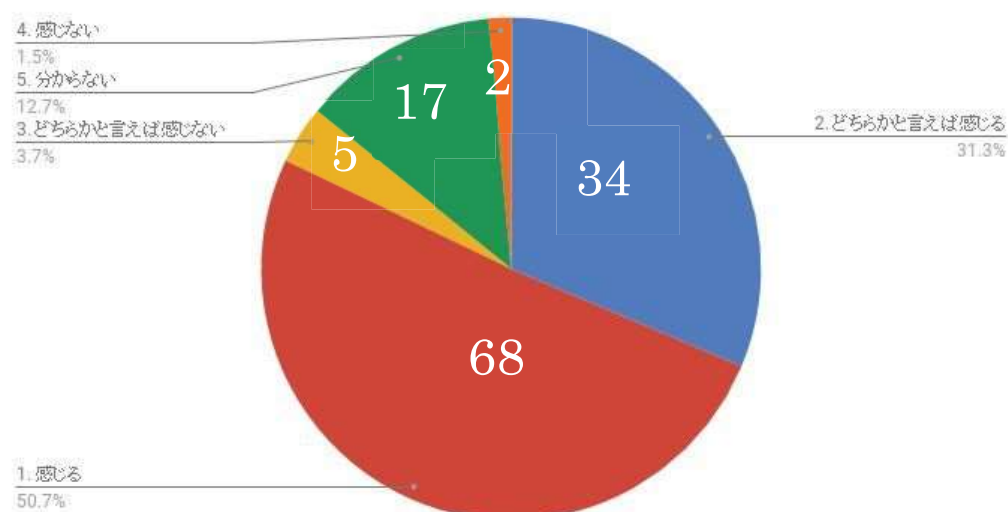


問 1 1．問 10 で知っている団体があると答えた方，知っている程度について当てはまるものはどれですか。（1 つだけ選択）

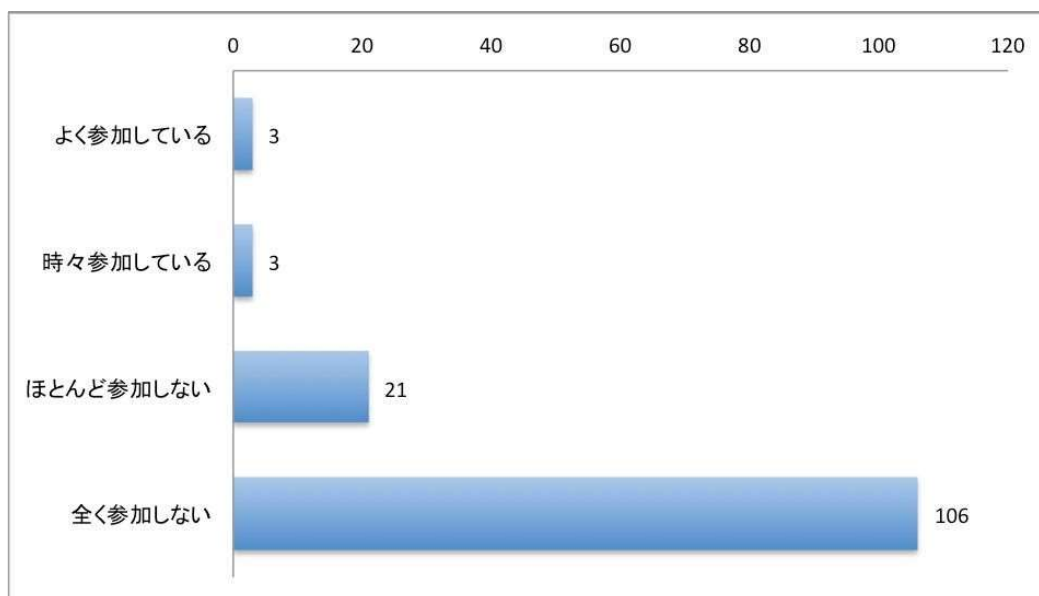


- ◆ 防犯活動を行っている団体の認知度は低く、団体名のみ知っている回答が多く見られました。これらの団体や活動の周知に課題が見られます。

問 1 2. あなたは、地域（自治会・町内会など）の人々が防犯・交通事故防止面で協力する必要性を感じますか。（1 つだけ選択）

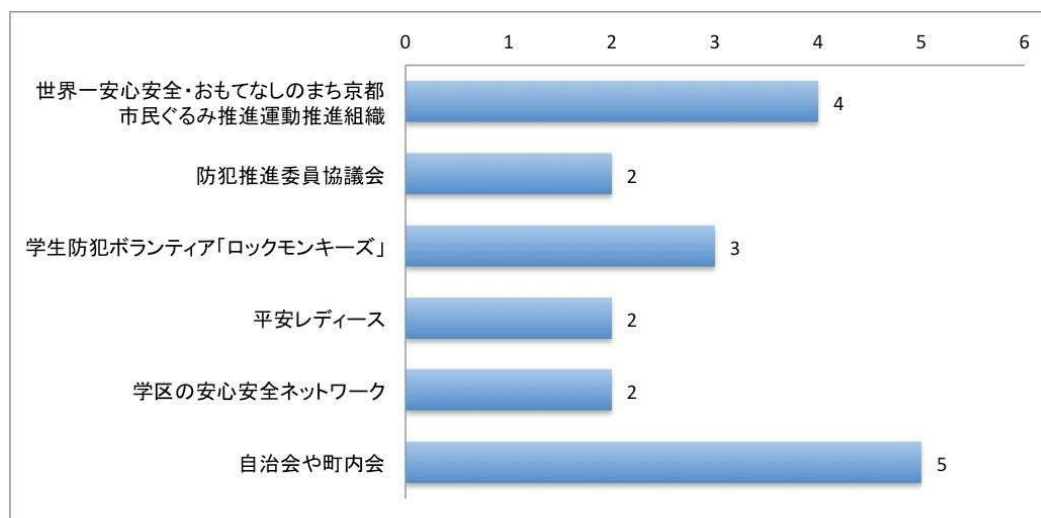


問 1 3. あなたは、この 1 年間の間で地域（自治会・町内会など）の人々による防犯活動に参加していますか。（1 つだけ選択）



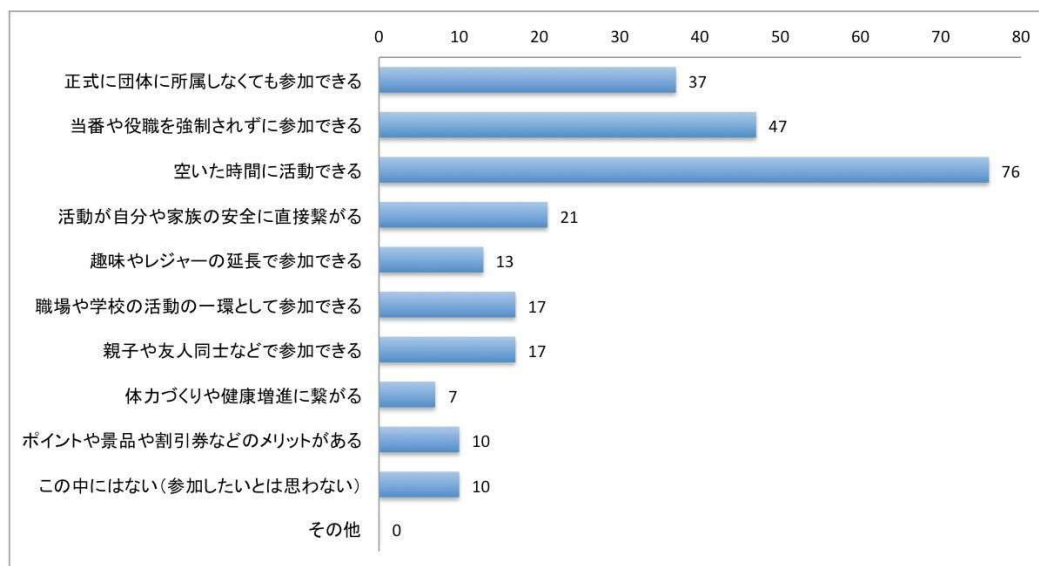
- ◆ 地域での防犯活動の必要性は感じる一方で、この 1 年間でそれらの活動に参加した方が少ない状況にあります。

問14. 問13で「1.よく参加している」「2.時々参加している」と答えた方、どの団体の活動に参加されていますか。(いくつでも選択可)



- ◆ 防犯活動に参加している方は、「自治会や町内会」「世界一安全な・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動推進組織」への参加が多く見られました。それぞれの団体間での協働や取り組みについて、共有や連携が必要と考えられます。

問 15. 問 13 で「3.ほとんど参加しない」「4.まったく参加していない」と答えた方におたずねします。どのような地域活動であれば参加してもよいと思いますか。(最大3つまで選択可)



◆防犯活動への参加動機には、「空いた時間活動できる」の回答が最も多く、必要性は感じるものの、参加する時間の捻出に課題があると考えられます。

問 16. 日常生活における防犯対策や防犯活動, 市の施策等についてご意見・ご要望がありましたら, ご自由にお書きください。

割れ窓理論が存在しますので、地域の清掃活動や落書きの削除、暗い夜道への電光処置を実施していくような地道な活動が必要かと思います。
なぜ地域の中に関係性が希薄化してしまったのか。望まれて現状になっているようにも感じるので、対策は難しいと思いますが、どうかよろしく願いいたします。
防犯カメラを多くする。
警察がいつも見守っていてほしい。
結局は個人。瞬時に身を守られたら良し。
安全に暮らしたいです。
交番を増やして欲しい。
街灯を増やす。